

単元(題材名)	1. 大きい数のしくみ	
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ 億や兆という単位を知り、整数の命数法、記数法についての理解を深めることができる。
	○ 整数の10倍、1/10にした数をつくることにより、整数が十進位取り記数法で表されていることの理解を深めることができる。
	○ どんな大きさの整数でも、0～9の10個の数字を使って表すことができることがわかる。
	○ (3位数)×(3位数)の筆算のしかたがわかり、計算することができる。
	○ 乗数に0を含む乗法や被乗数、乗数の末位に0がある乗法の筆算の方法が分かり、工夫して計算することができる。
思・判・表	○ 0～9の10個の数字を使って、いろいろな大きさの整数を考えることができる。
	○ (3位数)×(3位数)の筆算のしかたを既習の筆算方法から類推して考えることができる。
	○ 乗数に0を含む乗法や被乗数、乗数の末位に0がある乗法の筆算方法の工夫を考えることができる。
	○ 乗法を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 0～9の10個の数字を使って、いろいろな大きさの整数をつくらうとしている。
	○ 大きな数の乗法の筆算方法を既習の計算方法から類推して考え、考えたことを友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

【評価規準】

知・技	○ 億や兆という単位を知り、千兆の位までの数を、読んだり書いたりしている。
	○ 整数の10倍、1/10にした数の表し方と、位の変わり方を理解している。
	○ どんな大きさの整数でも、0～9の10個の数字を使って表せることを理解している。
	○ ある位の数が10個集まると、1つ上の位ができることを理解している。
	○ 何の位に数字を書かかによって、表す大きさが変わること理解している。
	○ (3位数)×(3位数)の計算を筆算でしている。
	○ 乗数に0を含む乗法や被乗数、乗数の末位に0がある乗法の計算を、工夫して筆算でしている。
思・判・表	○ 0～9の10個の数字を使って、いろいろな大きさの整数を考え、説明している。
	○ (3位数)×(3位数)の筆算方法を既習の筆算方法から類推して考え、説明している。
	○ 乗数に0を含む乗法や被乗数、乗数の末位に0がある乗法の筆算方法を工夫して考え、説明している。
	○ 乗法を使って、適用問題を解いている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 0～9の10個の数字を使って、一番大きい数や一番小さい数などを進んでつくっている。
	○ 被乗数、乗数の末位に0がある乗法の筆算方法について、計算のきまりを工夫して使えないかを考え、友だちと話し合っている。

単元(題材名)	2. 折れ線グラフと表	
主領域／領域／内容の区分	D データの活用	

【到達目標】

知・技	○ 折れ線グラフから、資料の変化の様子や特徴を読み取ることができる。
	○ 資料を折れ線グラフに表すことができる。
	○ 資料を目的に応じて2つの観点で分類整理し、二次元表にまとめ、資料の特徴を読み取ることができる。
	○ 資料を2つの観点で4つに分類整理し、落ちや重なりがなく二次元表にまとめ、読み取ることができる。
	○ 折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフを読み取ることができる。
思・判・表	○ 折れ線グラフにあらわれた資料の変化の様子を読みとり、その特徴について考察することができる。
	○ 資料を2つの観点で分類整理して表した二次元表から、資料の特徴を考察することができる。
	○ 折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフを読み取り、2つの量の関係を考察することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 折れ線グラフや二次元表の特徴について考え、考えたことを友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

【評価規準】

知・技	○ 折れ線グラフでは、線の傾きが急であるほど、変わり方が大きいことを理解している。
	○ 資料を折れ線グラフに表している。
	○ 2つの事象の変わり方を1つのグラフ用紙に表すよさを理解している。
	○ 波線でグラフの一部を省略して縦軸の幅を変えると、変化の様子が見やすくなることを理解し
	○ 資料を目的に応じて2つの観点で分類整理し、二次元表に表している。
	○ 資料を2つの観点で4つに分類整理し、落ちや重なりがなく二次元表に表している。
	○ 折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフを読んでいる。
思・判・表	○ 折れ線グラフの特徴を考え、説明している。
	○ 2つ以上の折れ線グラフを比較し、その変化の特徴を考え、説明している。
	○ 資料を2つの観点で分類整理して二次元表に表し、その特徴を説明している。
	○ 折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフを読み取り、2つの量の関係を考え、説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフから、2つの量の相関関係を粘り強く考えている。
	○ 資料を2つの観点で分類整理して表した二次元表から、資料の特徴をわかりやすく説明する工夫をしている。

単元(題材名)	3. わり算の筆算(1)－わる数が1けた	
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ (2位数)÷(1位数)の計算を筆算ですることができる。
	○ (2位数)÷(1位数)で、あまりのある筆算のしかたがわかる。また、検算のしかたが分かる。
	○ (3位数)÷(1位数)の計算を筆算で計算することができる。
思・判・表	○ 十の位がわりきれない(2位数)÷(1位数)の筆算のしかたや十の位がわりきれ(2位数)÷(1位数)の筆算のしかたを考慮することができる。
	○ 被除数のけた数が増えても、既習の計算方法から類推して計算方法を考えることができる。
	○ 除法を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ (2位数)÷(1位数)、(3位数)÷(1位数)の筆算のしかたを考え、その考えについて友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

【評価規準】

知・技	○ (2位数)÷(1位数)の筆算のしかたを理解し、筆算で計算している。
	○ あまりのある除法で、検算の方法を理解し、答えの確かめをしている。
	○ (2位数)÷(1位数)で、商に0がたつ計算を筆算で計算している。
	○ (3位数)÷(1位数)の筆算のしかたを理解し、筆算で計算している。
	○ (3位数)÷(1位数)で、商に0がたつ計算を筆算でしている。
	○ (3位数)÷(1位数)で、商が2けたになる計算を筆算でしている。
思・判・表	○ 十の位がわりきれない(2位数)÷(1位数)の筆算のしかたや十の位がわりきれ(2位数)÷(1位数)の筆算のしかたを考え、説明している。
	○ 被除数のけた数が増えても、既習の計算方法から類推して計算方法を考え、説明している。
	○ 除法を使って、適用問題を解いている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 被除数のけた数が増えても、既習の計算方法が使えないかを考え、友だちと話し合っている。
	○ 友だちが考えた計算方法を聞いて、自分の考えを見直している。

単元(題材名)	4. 角の大きさ
主領域／領域／内容の区分	B 図形

【到達目標】

知・技	<input type="radio"/> 角を回転角として捉え、半回転や1回転の角の大きさを、直角を単位として表すことができる。
	<input type="radio"/> 分度器のしくみを理解し、いろいろな角度を測定することができる。
	<input type="radio"/> 三角定規のそれぞれの角の大きさがわかる。
	<input type="radio"/> 分度器を使って、与えられた角の大きさを作図することができる。
	<input type="radio"/> 角の作図のしかたを活用して、三角形を作図することができる。
思・判・表	<input type="radio"/> 180°より大きい角度の測り方やかき方を考え、説明することができる。
	<input type="radio"/> 角の作図のしかたを活用して、三角形を作図し、どのように作図したかを説明することができる。
	<input type="radio"/> 角の大きさを利用して、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	<input type="radio"/> 180°より大きい角度の測り方やかき方を考え、考えたことを友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

【評価規準】

知・技	<input type="radio"/> 角を回転角として、捉えることを理解している。
	<input type="radio"/> 分度器を使って、いろいろな角度を測定している。
	<input type="radio"/> 三角定規のそれぞれの角の大きさを理解している。
	<input type="radio"/> 分度器を使って、与えられた角の大きさを作図している。
	<input type="radio"/> 角の作図のしかたを活用して、三角形を作図している。
思・判・表	<input type="radio"/> 180°より大きい角度の測り方を考え、説明している。
	<input type="radio"/> 180°より大きい角度のかき方を考え、説明している。
	<input type="radio"/> 角の作図のしかたを活用して、三角形を作図し、どのように作図したかを説明している。
	<input type="radio"/> 角の大きさを利用して、適用問題を解いている。
主体的に学習に取り組む態度	<input type="radio"/> 180°より大きい角度の測り方やかき方を考え、友だちと話し合っている。

単元(題材名)	5. 小数のしくみ
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算

【到達目標】

知・技	○ 1/1000の位までの小数の表し方や大きさがわかる。
	○ 小数の大小を比較したり, 相対的な大きさを指摘したりすることができる。
	○ 小数は, 十進位取り記数法で表されていることをもとに, 10倍, 100倍, 1/10, 1/100にした数がかかる。
	○ 小数の加法, 減法の計算を筆算でできる。
思・判・表	○ 小数をいろいろな見方で表すことを考えることができる。
	○ 小数の加減法の筆算方法を, 小数のしくみをもとに考えることができる。
	○ 小数の加法, 減法を使って, 適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ いろいろな見方で小数を表すことを考え, 考えたことを友だちと話し合い, 自分の考えを見直してまとめようとする。
	○ 小数の加減法の筆算方法を小数のしくみをもとに考え, 考えたことを友だちと話し合い, 自分の考えを見直してまとめようとする。

【評価規準】

知・技	○ 1/1000の位までの小数の表し方や大きさを理解している。
	○ 小数の大小を比較したり, 相対的な大きさを指摘したりしている。
	○ 小数を10倍, 100倍, 1/10, 1/100にしたときの, 位の変わり方を理解している。
	○ 小数第三位までの加法を筆算でしている。
	○ 小数点以下のけた数がかう加法や, 答えの末位の0を消す加法を筆算でしている。
	○ 小数第三位までの減法を筆算でしている。
	○ 小数点以下のけた数がかう減法や, 答えが純小数になる減法を筆算でしている。
思・判・表	○ 1つの小数をいろいろな見方で表し, 説明している。
	○ 小数の加減法の筆算方法を小数のしくみをもとに考え, 説明している。
	○ 小数の加法, 減法を使って, 適用問題を解いている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 1つの小数をいろいろな見方で表すことを考えようとしている。また, 友だちの見方を聞いて, 自分の見方を見直している。
	○ 小数の加減法の筆算方法を小数のしくみをもとに考え, 友だちの考えを聞いて, 自分の考えを見直している。

単元(題材名)	そろばん	
主領域/領域/内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ そろばん上に億や兆，小数第二位までの数をおいたり，はらったりできる。
	○ そろばんで，億や兆の単位の加減計算や，小数第二位までの加減計算ができる。
思・判・表	○ そろばんで，大きな数や小数の計算のしかたを考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ そろばんの有用性が，億や兆の大きい数や小数第二位の小数に広がり，さらに活用しようとする。

【評価規準】

知・技	○ そろばん上に億や兆，小数第二位までの数をおいたり，はらったりしている。
	○ そろばんで，億や兆の単位の加減計算や，小数第二位までの加減計算をしている。
思・判・表	○ そろばんで，大きな数や小数の計算のしかたを考え，説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ そろばんによる計算のよさを学習感想に書いたり，そろばんの練習をしている。

単元(題材名)	6. わり算の筆算(2)－わる数が2けた	
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	<input type="checkbox"/> 何十や何百何十を何十でわる除法の計算原理や方法を理解し、計算することができる。
	<input type="checkbox"/> (2位数)÷(2位数)の計算を筆算ですることができる。
	<input type="checkbox"/> (3位数)÷(2位数)の計算で、商が1けた、2けたになる計算を筆算ですることができる。
	<input type="checkbox"/> 末位に0のある除法を簡便な筆算ですることができる。
	<input type="checkbox"/> 被除数と除数に同じ数をかけても、被除数と除数を同じ数でわっても、商は変わらないことを知り、工夫して計算することができる。
思・判・表	<input type="checkbox"/> (2位数)÷(2位数)、(3位数)÷(2位数)の筆算のしかたを、既習事項をもとに考えることができる。
	<input type="checkbox"/> 除法を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	<input type="checkbox"/> (2位数)÷(2位数)、(3位数)÷(2位数)の筆算のしかたを考え、考えたことを友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

【評価規準】

知・技	<input type="checkbox"/> 何十や何百何十を何十でわる除法の計算原理や方法を理解している。
	<input type="checkbox"/> 何十や何百何十を何十でわる計算をしている。
	<input type="checkbox"/> (2位数)÷(2位数)の計算の筆算方法を理解している。
	<input type="checkbox"/> (2位数)÷(2位数)の計算を筆算でしている。
	<input type="checkbox"/> (3位数)÷(2位数)の計算で、商が1けた、2けたになる計算を筆算でしている。
	<input type="checkbox"/> 末位に0のある除法を簡便な筆算でしている。
	<input type="checkbox"/> 被除数と除数に同じ数をかけても、同じ数でわっても、商は変わらないことを理解している。
	<input type="checkbox"/> 除法の性質を使って、工夫して計算している。
思・判・表	<input type="checkbox"/> 既習の1けたでわる計算をもとに、2けたでわる計算のしかたを説明している。
	<input type="checkbox"/> 除法を使って、適用問題を解いている。
主体的に学習に取り組む態度	<input type="checkbox"/> 2けたでわる計算のしかたを考え、その考えを友だちと話し合っている。
	<input type="checkbox"/> 除法の性質を使って、工夫した計算のしかたを、わかりやすく説明する工夫をしている。

単元(題材名)	倍の見方	
主領域/領域/内容の区分	C変化と関係	

【到達目標】

知・技	○ 何倍かを求めるには、除法を用いることがわかる。
	○ 何倍かした大きさを求めるには、乗法を用いることがわかる。
	○ もとにする大きさを求めるには、除法を用いることがわかる。
	○ ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べるとき、割合で比べる場合があることがわかる。
思・判・表	○ もとにする大きさの何倍かを求める式を考えることができる。
	○ もとにする大きさの何倍かした量を求める式を考えることができる。
	○ もとにする大きさを求める式を考えることができる。
	○ ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べ方を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べるとき、割合を用いた比べ方のよさに気づき、日常生活で生かそうとする。

【評価規準】

知・技	○ 何倍かを求めるには、除法を用いることを理解している。
	○ 何倍かした大きさを求めるには、乗法を用いることを理解している。
	○ もとにする大きさを求めるには、除法を用いることを理解している。
	○ ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べるとき、割合で比べる場合があることを理解している。
思・判・表	○ テーブと数直線図から、もとにする大きさの何倍かを求める式を考え、説明している。
	○ テーブと数直線図から、もとにする大きさの何倍かした量を求める式を考え、説明している。
	○ テーブと数直線図から、もとにする大きさを求める式を考え、説明している。
	○ ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べ方を考え、説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べるとき、割合で比べることを知り、差で比べることの違いを考え、説明している。

単元(題材名)	7. がい数の使い方と表し方	
主領域/領域/内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ がい数, 四捨五入の用語とその意味を知り, 四捨五入して概数を求めることができる。
	○ 四捨五入して求めた概数の表す範囲を, 以上, 以下, 未満を使って表すことができる。
	○ 大きな数の和, 差, 積, 商を概数を用いて計算し, 見積もることができる。
	○ 場面に応じて, 切り上げや切り捨てを用いて見積もりをする必要があることがわかる。
思・判・表	○ 大きな数の和, 差, 積, 商の見積もりなど, 数値を必要に応じた概数になおして考えることができる。
	○ 場面に応じて, 切り上げや切り捨てなどの適切な処理のしかたを考慮することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 概数が用いられる場面や概数で表す良さを考え, 日常生活で生かそうとする。

【評価規準】

知・技	○ 概数, 四捨五入の用語とその意味を理解している。
	○ 四捨五入して□の位までの概数や, 上から○けたの概数を求めている。
	○ 四捨五入して求めた概数の表す範囲を, 以上, 以下, 未満を使って表している。
	○ 大きな数の和, 差, 積, 商の見積もりを, 概数を用いて計算する良さを理解している。
	○ 大きな数の和, 差, 積, 商を概数を用いて計算し, 見積もっている。
	○ 多めの見積もりや少なめの見積もりが必要となる場面を理解している。
思・判・表	○ 大きな数の和, 差, 積, 商の見積もりなど, 数値を必要に応じた概数になおして考え, 説明している。
	○ 場面に応じて, 切り上げや切り捨てなどの適切な処理のしかたを考え, 説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 日常生活の中で, 概数が用いられる場面をみつけている。
	○ 概算のよさを理解し, 日常生活の中の大きな数を概算で処理している。
	○ 場面に応じて, 見積もりのしかたを変える必要があることを理解し, 場面ごとに見積もりのしかたを考えている。

単元(題材名)	8. 計算のきまり	
主領域/領域/内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ ()のある式では, ()の中を先に計算することを理解し, 計算することができる。
	○ 四則混合計算では, 乗法や除法を先に計算することを理解し, 計算することができる。
	○ 計算の分配法則, 交換法則, 結合法則を理解し, 工夫して計算することができる。
思・判・表	○ 2段階の構造の問題を, ()を用いて1つの式に表す方法や計算の順序を考えることができる。
	○ 分配法則の意味を図や式を使って考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 2段階の構造の問題を1つの式に表す方法を理解し, 日常生活に生かそうとする。

【評価規準】

知・技	○ 加減算と()のある式では, ()の中を先に計算することを理解し, 計算している。
	○ 乗除算と()のある式では, ()の中を先に計算することを理解し, 計算している。
	○ 四則混合計算では, 乗法や除法を先に計算することを理解し, 計算している。
	○ 計算の分配法則, 交換法則, 結合法則を理解し, 工夫して計算している。
思・判・表	○ 2段階構造の問題を()を用いて1つの式に表す方法や計算の順序を考え, 説明している。
	○ 加減と乗除の2段階構造の問題を()を用いて1つの式に表す方法や計算の順序を考え, 説明している。
	○ 四則混合計算の計算の順序を考え, 説明している。
	○ 分配法則の意味を, 図や式を使って説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 日常生活にある2段階の場面の数量の関係を, ()を用いて1つの式に表す方法を考え, 説明している。
	○ 日常生活にある数量の関係を, 四則混合の1つの式に表し, 計算の順序を考え, 説明している。

単元(題材名)	9. 垂直, 平行と四角形	
主領域/領域/内容の区分	B 図形	

【到達目標】

知・技	○ 垂直の用語とその意味を理解し, 垂直な直線を見つけたり, ひいたりすることができる。
	○ 平行の用語とその意味, 性質を理解し, 平行な直線を見つけたり, ひいたりすることができる。
	○ 台形, 平行四辺形, ひし形の用語とその定義や性質を理解し, それらを弁別したり, 作図したりすることができる。
	○ 対角線の用語とその意味を理解し, 対角線に着目していろいろな四角形を考察したり, 対角線を用いていろいろな四角形を作図したりすることができる。
思・判・表	○ 2本の直線の並び方を, ほかの1本の直線との交わり方に着目して考えることができる。
	○ 台形や平行四辺形の特徴を, 辺の並び方に着目して考えることができる。
	○ ひし形の性質を, 対辺や対角に着目して考えることができる。
	○ 対角線に着目して, いろいろな四角形の性質を捉えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ いろいろな四角形について, それぞれの図形を構成する要素に着目し, 図形の性質を見いだそうとする。

【評価規準】

知・技	○ 垂直の用語とその意味を理解し, 垂直な直線を見つけたり, ひいたりしている。
	○ 平行の用語とその意味, 性質を理解し, 平行な直線を見つけたり, ひいたりしている。
	○ 平行な直線は, ほかの直線と等しい角度で交わることを理解している。
	○ 台形, 平行四辺形の定義を理解し, 2本の平行な直線を使って, 台形, 平行四辺形をかいている。
	○ 平行四辺形の性質を理解し, 作図している。
	○ ひし形の定義や性質を理解し, 作図している。
	○ 対角線の用語とその意味を理解し, いろいろな四角形の対角線の特徴を調べている。
思・判・表	○ 2本の直線の並び方を, ほかの1本の直線との交わり方に着目して説明している。
	○ 台形や平行四辺形の特徴を, 辺の並び方に着目して説明している。
	○ ひし形の性質を, 対辺や対角に着目して説明している。
	○ 2本の対角線からできる四角形の名前を, 四角形の対角線の特徴から説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ いろいろな四角形の特徴から, 長方形は平行四辺形の特別な場合であることを説明している。
	○ いろいろな四角形の特徴から, 正方形はひし形の特別な場合であることを説明している。

単元(題材名)	10. 分数	
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ 真分数、仮分数、帯分数の用語とその意味を知り、仮分数を帯分数や整数で表したり、帯分数を仮分数で表したりすることができる。
	○ 分母や分子がちがっても大きさの等しい分数があることを理解し、大きさの等しい分数をみつけたり、大小比較をしたりすることができる。
	○ 同分母分数の加法、減法の意味や計算方法を理解し、立式したり、計算したりすることができる。
思・判・表	○ 帯分数の加法や減法で、くり上がりのある加法、くり下がりのある減法の計算方法を考えることができる。
	○ 分数の加法、減法を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 同分母分数の計算のしかたを考え、考えたことを友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

【評価規準】

知・技	○ 真分数、仮分数、帯分数の用語とその意味を理解している。
	○ 仮分数と帯分数の関係を知り、仮分数を帯分数か整数で表している。
	○ 帯分数と仮分数の関係を知り、帯分数を仮分数で表している。
	○ 分母や分子がちがっても大きさの等しい分数があることを理解している。
	○ 分子が等しい分数では分母が大きくなるほど、小さい分数になることを理解している。
	○ 大きさの等しい分数をみつけたり、大きさの大小を比較したりしている。
	○ 仮分数の加法、減法の計算をしている。
	○ 帯分数の加法、減法の計算をしている。
	○ 分数部分がひけないときの帯分数の減法の計算をしている。
思・判・表	○ 仮分数を帯分数に、帯分数を仮分数に表す方法を説明している。
	○ 帯分数の加法で、くり上がりのある計算方法を考え、説明している。
	○ 帯分数の減法で、くり下がりのある計算方法を考え、説明している。
	○ 分数の加法、減法を使って、適用問題を解いている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 帯分数の計算で、くり上がりのある加法やくり下がりのある減法の計算方法を考え、その考えをわかりやすく説明する工夫をしている。
	○ 友だちが考えた計算方法を聞いて、自分の考えを見直している。

単元(題材名)	11. 変わり方調べ	
主領域/領域/内容の区分	C 変化と関係	

【到達目標】

知・技	○ 伴って変わる2つの数量の関係の調べ方がわかる。
	○ 伴って変わる2つの数量の変わり方を調べて、表や式に表すことができる。
思・判・表	○ 伴って変わる2つの数量の関係を表に表したり、□や○などを用いた式に表したりして考えることができる。
	○ 伴って変わる2つの数量の関係を表に表して、その関係を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 伴って変わる2つの数量の関係について考え、考えたことを友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

【評価規準】

知・技	○ 伴って変わる2つの数量の関係を調べるときは、表や式を用いるよさを理解している。
	○ 時計盤を使って、時計盤の針が指す表と裏の時刻の関係を□ + ○ = aの式に表している。
	○ 正三角形を横に並べたときのまわりの長さを□ + a = ○の式に表している。
	○ 正方形を並べて階段のような形をつくったときの段の数とまわりの長さを□ × a = ○の式に表している。
思・判・表	○ 伴って変わる2つの数量の関係をみつけるとき、一方を順序よくかえ、もう一方の変わり方に着目している。
	○ 伴って変わる2つの数量の関係を表に表したり、□、○などを用いた式に表したりして考え、説明している。
	○ 伴って変わる2つの数量の関係を表に表して、その関係を考え、説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 表や式に、伴って変わる2つの数量の関係を表す方法や変化の規則性などについて考え、説明している。

単元(題材名)	12. 面積のはかり方と表し方	
主領域/領域/内容の区分	B 図形	

【到達目標】

知・技	○ 面積の用語と意味, cm^2 の単位を知り, 方眼上の図形の面積を cm^2 の単位で表すことができる。
	○ 面積を計算で求める方法を考え, 長方形と正方形の面積を求める公式をまとめ, 適用することができる。
	○ 面積の単位 cm^2 , m^2 , km^2 , a, haがあることを知り, それぞれの大きさの関係がわかる。
思・判・表	○ 公式を活用して, 問題を解くことができる。
	○ 公式を適用して, 複合図形の面積の求め方を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 複合図形の面積の求め方について, 既習事項を使って考えようとする。

【評価規準】

知・技	○ 面積の用語とその意味を理解している。
	○ 面積の単位 cm^2 を知り, 方眼上の図形の面積を cm^2 の単位で表している。
	○ 長方形, 正方形の面積の求積公式を理解している。
	○ 求積公式を適用して, 長方形, 正方形の面積を求めている。
	○ 大きな面積の単位 m^2 を知り, $1\text{m}^2 = 10000\text{cm}^2$ の関係を理解している。
	○ 大きな面積の単位 km^2 を知り, $1\text{km}^2 = 1000000\text{m}^2$ の関係を理解している。
	○ 大きな面積の単位a, haを知り, $1\text{a} = 100\text{m}^2$, $1\text{ha} = 10000\text{m}^2$ の関係を理解している。
思・判・表	○ 求積公式を適用して, まわりの長さが一定の長方形や正方形の面積を求め, 気づいたことを話し合っている。
	○ 求積公式を活用して, 問題を解いている。
	○ 求積公式を適用して, 複合図形の面積の求め方を考え, 説明している。
	○ 面積の単位の関係をまとめ, 1辺の長さを10倍すると, 面積が100倍になることを説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 求積公式を適用して, まわりの長さが一定の長方形や正方形の面積を求め, 気づいたことを話し合い, 自分の考えを見直している。
	○ 求積公式を適用して, 複合図形の面積の求め方を考え, その考えをわかりやすく説明する工夫をしている。

単元(題材名)	13. 小数のかけ算とわり算	
主領域/領域/内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ 小数に整数をかける乗法の意味や計算方法を理解し、筆算で計算することができる。
	○ 小数を整数でわり、あまりのない除法の意味や計算方法を理解し、筆算で計算することができる。
	○ 小数を整数でわり、あまりのある除法の意味や計算方法を理解し、筆算で計算することができる。
	○ 小数や整数を整数でわる除法で、わり進んで商が小数になる場合の筆算方法を理解し、計算することができる。
	○ 小数や整数を整数でわる除法で、わりきれない場合、商を概数で求めることができる。
	○ 除法を用いて何倍かを求め、整数や小数を用いて何倍かを表すことができる。
思・判・表	○ 小数×整数、小数÷整数の計算のしかたを、既習の整数の乗法、除法をもとに考えることができる。
	○ あまりのある小数÷整数で、あまりの大きさを考えることができる。
	○ 小数の乗法、除法を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 小数×整数、小数÷整数の計算のしかたについて考え、考えたことを友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

【評価規準】

知・技	○ 純小数×整数(1位数)を計算している。
	○ 小数×整数の計算を筆算でしている。
	○ 小数÷整数の計算を筆算でしている。
	○ 商が純小数になる計算を筆算でしている。
	○ あまりがある除数で、あまりの小数点は被除数の小数点にそろえて打つことを理解している。
	○ 整数÷整数や小数÷整数を、わりきれるまで計算している。
	○ 商を上から2けたの概数で求めている。
	○ 何倍かを表す数小数になることがあることを理解し、求めている。
思・判・表	○ 小数×整数の計算のしかたを、既習の整数の乗法をもとに考え、説明している。
	○ 小数÷整数の計算のしかたを、既習の整数の除法をもとに考え、説明している。
	○ 小数÷整数で、あまりがある場合、あまりの大きさを考え、説明している。
	○ 小数の乗法、除法を使って、適用問題を解いている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 小数を整数に置き換えて考えたり、図や式に表したりして計算方法を考え、説明している。
	○ 友だちが考えた計算方法を聞いて、自分の考えを見直している。

単元(題材名)	14. 直方体と立方体	
主領域/領域/内容の区分	B 図形	

【到達目標】

知・技	○ 直方体, 立方体の用語と定義がわかる。
	○ 直方体, 立方体について, 頂点, 辺, 面の数や, まわりが平面で囲まれていることがわかる。
	○ 展開図の用語とその意味を知り, 直方体, 立方体の展開図をかくことができる。また, 展開図から直方体, 立方体をつくることができる。
	○ 直方体の面と面, 辺と辺, 面と辺の関係を調べ, それぞれ垂直, 平行の関係がわかる。
	○ 見取図の用語とその意味を知り, 直方体, 立方体の見取図をかくことができる。
	○ 平面上にある点, 空間にある点の位置を基準点をもとに表すことができる。
思・判・表	○ 頂点, 辺, 面の構成要素の数や形, その位置関係を観察し, 直方体や立方体の特徴を考察することができる。
	○ 展開図から, 構成要素の位置関係を考え, 重なる辺, 重なる頂点などを指摘することができる。
	○ 平面上の位置の表し方をもとに, 空間にある点の位置の表し方を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 直方体や立方体について, それぞれの図形を構成する要素や位置関係に着目し, 直方体や立方体の特徴を捉えようとする。

【評価規準】

知・技	○ 直方体, 立方体の用語と定義を理解している。
	○ 直方体, 立方体の頂点, 辺, 面の数や, まわりが平面で囲まれていることを理解している。
	○ 展開図の用語とその意味を知り, 直方体, 立方体の展開図をかいている。
	○ 展開図を組み立てて, 直方体, 立方体をつくっている。
	○ 直方体の面と面, 辺と辺, 面と辺の垂直, 平行の関係を理解している。
	○ 見取図の用語とその意味を知り, 直方体, 立方体の見取図をかいている。
	○ 平面上にある点, 空間にある点の位置を基準点をもとに表している。
思・判・表	○ 頂点, 辺, 面の構成要素の数や形を調べ, 直方体と立方体を比較している。
	○ 展開図から, 構成要素の位置関係を考え, 重なる辺, 重なる頂点などを指摘している。
	○ 平面上の位置の表し方をもとに, 空間にある点の位置の表し方を考え, 説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 展開図を組み立てて, 直方体や立方体の頂点, 辺, 面の構成要素の数やその位置関係を確認している。
	○ 平面上の位置の表し方をもとに, 空間にある点の位置を表している。

単元(題材名)	4年のふくしゅう	
主領域／領域／内容の区分	A～D	

【到達目標】

知・技	○ 既習内容の理解を確認する。
思・判・表	
主体的に学習に取り組む態度	

【評価規準】

知・技	○ 既習内容について解決の仕方を理解し、問題を解決することができる。
思・判・表	
主体的に学習に取り組む態度	